

くちばし

ペンチな嘴、アトリ科

アトリと聞くとあまりなじみのない鳥ですが、ヒワやウソ、マシコと名がつく仲間がいます。日本では、その多くが冬によくみられます。

富士山の裾野には、標高の高い地域や高緯度地域から越冬のため様々な渡り鳥がやってきます。冬は虫が少ないため木の実が重要な餌になります。特に硬い皮や殻におおわれた木の実などは中の種子を取り出すのにペンチの様な丈夫な嘴が無ければ歯が立ちません。種子も硬いので嘴は硬い（太い・短い）方が有利です。アトリ科の鳥たちは豊富な種を求めてやってきます。



アトリ（左がオス、右がメス）
冬鳥。10月ごろ飛来。5月ごろ飛去。
胸がオレンジ色。頭部がメスは茶色、オスは灰色。
オスはオレンジ色がより鮮やか。



ウソ（左がオス、右がメス）
漂鳥、留鳥、冬鳥。オスの赤い喉が特徴。
亜種に腹まで赤いアカウソがいる。



シメ（左がオス、右がメス）
漂鳥、冬鳥。冬の間は嘴が淡いピンク色。
オスは嘴の付け根や目先が黒い。



ベニマシコ（左がオス、右がメス）
漂鳥。北海道などから11月ごろ飛来。
翼に2本の白い帯が目立つ。



イカル
漂鳥、留鳥。黄色い嘴。硬い木の実を嘴で転がして割る。



カワラヒワ
留鳥、冬鳥。翼の黄色い斑。ピンクの嘴。
大型の亜種オオカワラヒワがいる。

アトリ科に近い仲間、ホオジロ科の鳥たち



ホオジロ



ホオアカ



カシラダカ



ミヤマホオジロ



アオジ

アトリやベニマシコに似てるでしょう？

鳥の分類は形態解析からDNA解析に変わってきています。これまでの分類が変更されることがあります。